

エゾマツ

北海道ボランティア・レ
ンジャー協議会

発行責任者 河村 千束

1991. 8. 13.

「麒麟山狐戻城」(きりんざんきつねもどりじょう)

副会長 八戸 克美

今年も早いもので、4月も、10日を過ぎようとしています。野山にも春が訪れ、草木も芽を吹きはじめて来ました。本州方面(東京近郊)は、桜も咲き始めています。

3月10日(日)には、野幌森林公園事務所主催の冬の観察会が、野幌森林公園内大沢コースで催され、報道関係は、STVテレビが同行し、翌日の夕方ニュースで放映されました。ボランティア・レンジャーとして佐々木幸夫さん、玉田紀美子さんの解説している姿が映っていました。

私事ですが、一年程前に新潟県に出張した折、宿舎近くの「きりん山」に登って来ました。少し解説すると、新潟より福島県へ抜ける国道49号を津川町より鹿瀬町へ通じる境に、「麒麟山狐戻城」の城跡があります。由来を少し述べると、建長4年(1252)会津芦名の一族、藤原盛弘が「麒麟山狐戻城」の天嶮を利用して築いた山城で、この城は山が峻阻のため狐も戻るといので、この名がつけられたそうです。

天正17年(1589)6月芦名義弘は、米沢から侵入した伊達正宗と磐梯山麓で戦って敗れ、急を聞くや盛備(もりやす)は駆けつけ奮闘し壮烈な戦死をとげた。寛永4年(1627)に77年の歴史を誇った城も幕名によって廃城となり、以後津川に代官が置かれた。と記してありました。

歴史については、これ位にして、この日は、秋晴れの日曜日でありました。城跡までの道程を散策したので、記憶をたどりながら少し述べてみます。

野鳥の種類としては、下に阿賀野川が流れているせいか、ヤブサメ、キビタキ、ヤマガラ、サンショウクイ、エナガ、オオルリ、アオゲラ、イカル、センダイムシクイ、フクロウがよく飛んで来ます。植物としては、丈の低い植物では、ユキツバキ、ヒメアオキ、ハイイヌツゲ。葉の大型のものではマルバマンサク、オオバクロモジ等が植生しています。毛のある植物としてはケキブシ、ケイタドリ、高山帯亜高山植物としては、キンユウカ、アカミノイヌツゲ、又暖地性の植物として、ナンキンナナカマド、ソヨゴツル、マサキ等が植生しています。樹木としては、ケンボナシ、トチノキ、コブシ、ヤマモミジ、サンショウ(とげ有り)、ヤマナシ、アズキナシ、カスミザクラ、ソメイヨシノ、ハルニレ、カラマツ、ネムノキ、ヒノキ、アオハダ、アカマツ、コナラ等が見られました。

この付近は越後山脈が通っているところで、隣の町は、上川村と言って、本道上川町に開拓者として沢山来ているようです。上川村では縄文式土器や人骨も出土し、住居跡もあります。この部落は山菜が沢山採れますが、外部のものは入れてくれません。

ゼンマイやキノコ等で、年間4億円も売上があり、それで生活している様です。とりとめのない事ばかり書きましたが、植物も野鳥も札幌近郊と違ってなかなか記憶できませんでした。

江別近郊も、野原や畑の雪もなくなり、色々な植物が一度に芽を出し、色つきはじめています。皆様の近くではどうでしょうか。皆様の一報を「エゾマツ」にお寄せ下さるようお願いいたします。(1991. 3. 25.)

「新緑に思う」

道庁林務部森林整備課 沼田隆司

皆さん、こんにちわ。北海道の新緑のさわやかな季節を迎え、皆さんの気持ちも何となく弾み、お元気で、それぞれの街や皆さんの家の近辺の草、花、鳥などに触れ、ご活躍のことと思います。

私、本誌上に今回初めて登場します沼田です。いきなり沼田といわれても、私のことを知っている方はほとんどいないかと思いますが、平成元年度に道庁の自然保護課にいまして、旭岳で行ったボランティア・レンジャー育成研修会を担当し皆さんに色々とお世話になった者で、当日はあいにくの悪天候にもかかわらず皆さんと講師の先生方の熱意で、私も初めての経験ながら大変勉強になった機会でした。そう言われればあの時のウロウロしていた人かと、思い出していただければ私も幸せ者で、当時は参加した皆さんが全道各地からそれぞれの思いで集まったわけですが、自然への興味や自然をいかにわかりやすく解説するかという共通の目的を持った仲間の力強さと自然に対する思いやりの心に触れ、その気持ちがピンピンとこちらに伝わってきて圧倒された事が、今も私の記憶に強烈に残っています。

私事ばかりで話はつまらないのですが、ついでに今の私の仕事にちょっと触れますが、林務部森林整備課の造林振興係でその名のとおりに造林（山に木を植えたり、その保育など）の補助事業の関係の仕事をしています。いま流でカッコヨクいえば「みどり」を増やし育てる仕事です。最近、みどりや森林の大切さがいろいろな観点からいろいろなレベル（身近なみどりから地球規模まで）で叫ばれていますが、山に木を植え山にある木を育て森林を整備していこうとする意欲（森林所有者の意欲）は、停滞している状況にあるといえます。世の中の流れに乗り切れない林業としての経済的・社会的な悩みや問題もあり、これからは、森林そのものや森林づくりに対する世の中の人の理解をもっともっと得て、森林に対する意識そのものを変えていかなければならないと思っています。それには、あせらず、じっくりと、一歩ずつ、輪をひろげていく、そして、輪の数を増やしていくことが大事ではないかと感じています。

こういう観点からみれば、これからの森林づくりは、皆さんが活躍されていること、すなわち、動物や植物、自然との触れ合いを通して自然のしくみや自然の楽しさを理解してもらい、自然を大切にしていく心を育て、長い目で見れば自然に対する世の中の人の意識を変えていくことと、共通している課題があるということを感じています。仕事が変わっても同じようなことを根っこに引きずって仕事にとりくんでいる次第です。

さて、私は自然観察会に参加することは少ないほうなので、皆さんにとってはよい生徒ではありませんが、できるだけ外で遊ぶ（野外活動）ように心がけできるだけ子供（小学生）を引っ張りこむように心がけています。年度サイクルの4月をスタートすると、スキーに始まってスキーに終わる一年で、特に、5月の春スキーは野鳥のさえずりを聞きながら柔らかい日差しをあびて滑る快感は何とも言えず最高で、雪質のことは二の次です。雪が解けると春の山菜取りに始まり、ハイキング、山登り、海水浴、夏休み自然教室、秋の山菜取り、そして雪が降るとスキーに突入、といったパターンで、この間、イベントに参加したりスポーツ（テニスや野球 — 子供のつきあい）をやったり、比較的忙しい一年となります。子供には、ジンギスカンをやるとかおいしい弁当を作るとか、途中でおいしい名物をたべるとか、もっぱら食い気をエサに外に連れ出しています。皆さんからみれば、何と不純などうきで？とおおもいになることでしょうか、それでも少しずつ自然の中で遊ぶ楽しさや自然への興味が芽生えてきているようです（親のひいき目かな？）。

先日も、わが家の年中行事であるウド取りに5時に起床して（妻は弁当作りのため4時起き感謝しています）出発、約2時間後に現地着く、収穫は十分なごたえでしたが、降雨の悪い天候にもかかわらず、野鳥の木々に響くさえずり、可憐な草花、大きなカエル、カタツムリ、生き生きとしたせせらぎ、大きな樹木、ガケくずれや伐採跡、カラスの大群など自然とのふれあいも十分なごたえでした。しかし、いつも反省することは、この恵まれた自然の材料を子供に対して生かしきってないことです。親としては目のまえのウドに夢中になり子供の感性に期待をかけているだけ、子供からみはなされる前に親も少し勉強しなくちゃ・・・そんな反省です。

こんな日常生活の中で思うことは、やはりボランティア・レンジャーの存在と役割は、自然とのふれあいが多く求められている現在、大きくなるばかりですが、期待の大きさにあせらず、山づくりとおなじように、じっくり、少しずつ、仲間の輪を広げ、人づくりという観点から、それぞれの活動をしていってほしいものと感じています。

何よりも自然や人間が好きな人・・・ばんざい。



『シロウトの自然調査』

白老町 内山 善博

自然に日頃関心を持つ白老在住の仲間9名にて、昨年4月に「しらおい自然研究会」を設立。内、北海道ボランティア・レンジャー協議会会員3名の皆全くシロウトばかりの構成員、白老町役場より「白老自然環境基礎調査」委託業務を受託。調査期間4月～11月。報告書作成12月～3月。

参考までに、共同調査作業のある日を記す。

- ① 出勤前の早朝調査。現地集合。調査コースの確認。留意事項の確認。
- ② 調査作業
イ・・・対象物（草本・木本の花。野鳥）見つける作業。
ロ・・・確定（携帯用図鑑参照）
ハ・・・記録
ニ・・・写真
ホ・・・未判明物は大図鑑で確定。
ヘ・・・記録

③ 要め。次回調査の打ち合わせ。解散。
尚、②のイ～ハの調査作業は分業担当にてスピーディー化。ロ～ヘで学習。

次に、調査内容として

- ① — ミズバショウ群生地。 ② — ハマナス群生地。 ③ — ホタル生息地
- ④ — 河川自然度。 ⑤ — 一般調査として五ヶ所。調査回数合計52回。会議11回。報告書作成作業 — 9回でした。

シロウトばかりの自然調査で、不十分な点が多々ありましたが、自然が大好き。もっと自然を大切にしたいという熱意で取り組みました。貴重な体験により、貴重な資料が得られたと思います。

1991年4月28日

『ネイチャーイン、エリモ岬ユースホステル』からの通信

えりも町 仙庭 秀弘

エゾエンゴサク、カタクリの花が春の便りをくれました。エリモ岬では、ゼニガタアザラシの出産の季節（5月～6月）が近づいて来ました。

（1年中岬の海に住んでいる）ゼニガタアザラシの生態解明のため標識をつけることもあることだし、岬で共生していくためには未知の部分が、多い動物ですが、標識をつける事も5年になるか10年になるか、息の長い仕事ですが仲間の足手まといにならないように手伝いたいと思っています。

ハマナスの芽もふくらんで来て、いつもの様に、今年もボランティアで植える季節になり、草取り、植樹と大変ですが、岬を訪れる人々の目を楽しませることが出来れば嬉しいことなので、続けたいものです。また、岬の裸地に、引き続きクロマツの苗を植樹しなければならないし、若者達の仲間と、ともに海の環境づくりのお手伝いになればと仲間の善意に支えられて続けてきましたが、これも長く続けていきたいものと仲間と話しています。（国有地の裸地へ）

こんなボランティア活動も、旅をする若者の善意なお手伝いがあればこそですし、地元の若者達のボランティアに支えられてですが、少しずつですが地元の子供たちにも関心もたれて来ていますのでがんばりたいと思っています。職業が旅をする青少年の宿泊施設なので旅をする青年と語り、そして、ボランティアで助けていただいたりネイチャーガイドとしてアポイ岳や岬の高山植物を通しての自然のすばらしさを感じて頂ける様に日々です。道内のボランティア・レンジャーの皆様、是非、えりも岬のゼニガタアザラシをウオッチングしませんか。その節は御一報下さればネイチャースコープを用意して、ガイドさせて頂きたくお待申しております。

『オレだって野鳥だぞ』



札幌市 佐藤 健一

6年前、大阪、函館と転勤、15年ぶりに札幌市南区藤野の自宅に帰ってきました。

小さな庭に、植えていた、オンコやドウダンツツジなど立派な庭木になって、私を迎えてくれました。

しかし成長の早いニオイヒバは大木となって、庭を暗くしていたので、1～2本間伐し、それを材料にバードテーブルを作りました。

初冬からガラ類をはじめスズメからキジまで毎朝、楽しませてくれます。ガラ類はラードが好物と聞いて近くのスーパーマーケットから買い込み、テーブルの柱に針金でくくりつけておいたら小鳥たちは喜んでつついていたのですが、2～3日後綺麗に無くなっている。

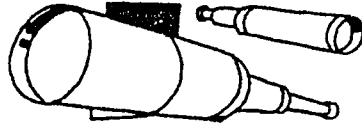
女房はカラスがみんな取っていったのだと言う。それからはしばしカラスとの知恵比べですが、ジャッケルとヘッケルたちの勝利に終わりました。

ある時、カラスはテグスが嫌いと聞いて、テーブルの近くに（1メートルくらい）テグスを一本張ってみました。

効果てきめん、敵は近くの木のテッペンで、考えこんでいる様子、一向にラードに近づかない。そのうちにカラスをジックリ観察する機会があり、ある時、様子を見ているうちに、ハッと吾にかえった。テグスすぐに取り払った。次の日ラードは全くない。しかし、気持ちがホノボノした。

こんなことに気がつくのに幾10年もかかるなんて全く情けないことです。これが本当のことです。

これからも大いに勉強しなくちゃと思っています。



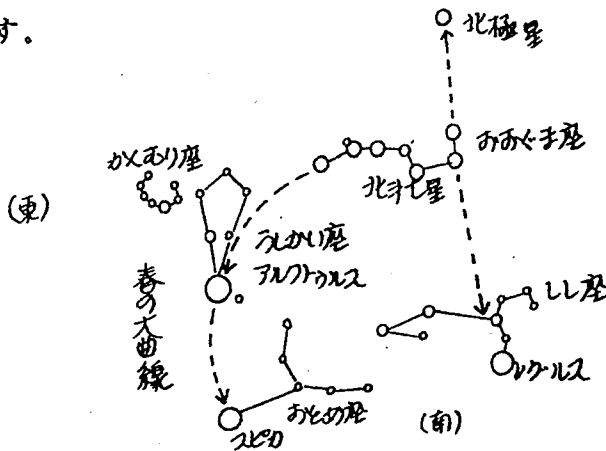
旭川市 沖館紀子

夕方の西の空にすばらしく明るい星が輝きます—金星です。当分の間、宵の明星としてみる
ことができます。5月から6月にかけてはこの近くに火星と木星も輝き、ひときはにぎやかさ
を増します。

また、夜半過ぎには土星も姿を見せはじめます。望遠鏡を使えば、天王星・海王星もとらえ
ることができるのですが…

それに望遠鏡をお持ちの方は、木星の周囲を回る4大衛星（ガリレオ衛星—あのガリレオ・ガ
リレイが発見したといひます）をごらんください。うまくいくと、衛星の相互食（衛星が、他
の衛星を隠す—5月3日19時19分、5月10日21時34分）も見る事ができるでしょう。また、
4大衛星だけでしたら、双眼鏡でも十分見ることができます。できれば、三脚などで固定して
ください。

西空の明るい惑星をながめているうちに、まわりも次第に暗くなり、星座をつくる星々も出
そろってきます。皆さんおなじみのおおぐま座の北斗七星が、北の空高く見やすくなっていま
す。これからの季節、北斗七星を使った明るい星探しを紹介しておきます。参考になれば幸い
です。



P. S 年が明けてから、埜川範行著『鳥の来る日』と高野伸二著『野鳥を友に』の二冊の
本を続けて読みました。そのかい(?) あつてか、当市(旭川)の鳥にも指定されているギレ
ンジャクにあえました(3月2日)。200羽近い群れでした。1週間ほど幸せいっぱい過
ごしました。また、今日(4/12)は、職場近くの池でマガモに混じってオスのオシドリが迷
い込んでいるのを見つけました。本当に美しい鳥です。やはり、しばらく幸せいっぱい続き
そうです。

「生き物との共存」を求めて

札幌市 中川 親善

私達の身近かなところに残っている自然には、何らかの形で人の手を加えて維持してきたことに、ひとつの特徴があります。自然が豊かであるといわれてきたこの北海道でも、明治からのきわめて短い歴史のなかで、近代化の激風は、都市から自然を追い出し、そして、農村の自然までを荒廃させてしまいました。

最近においては、とくにとり立てるほどの特色もない自然までが、みるみるうちに失われてしまいました。

今までの私達は、自然というものを、克服し、征服する対象として見てきたようにおもいます。しかし、近年になって、この自然は限りあるものだということに、やっと気づいたようです。

私達は、これからは自然と共存していくのだということ、真剣に考えてゆかなければならない、もはや、避けては通ることのできない課題となっています。

共存の対象となっているのは、国立公園などの特定の自然や、手つかずの自然ばかりでなく、むしろ、身近な都市や農村でこそ自然との共存が求められています。

無抵抗な身近な自然を駆逐してしまった結果、私達は自然の循環システムや生態系を傷つけ、水や緑や、土や空気など、すべての生き物が混然一体となって培い促進してきた自然の浄化機能の低下が、最近は特に著しくいまや、私達の住む地球の問題へと発展してきました。

最近の激しい洪水や地震、そして台風などをみると、強烈に抵抗する自然に対して、自然のもつ底知れぬエネルギーやメカニズムを、私達はどれほど知っているのだろうか、ふと考えることがあります。

自然との共存を考えるうえで最も大事なことは、これまでのように自然を人間の側に引き寄せるのではなくて、人間が自然に近づくこと・自然の循環システムのなかで人間生活を考えていくこと・・・人間の営みと自然との共存を探る試みは、いま始まったばかりともいえますが、人間が生き物と触れ合うことから学ぶことの大きさを、これからも考え続けてゆこうとおもいます。

春分の日の閑暇に

— 新年度と旧年度の雑然とした中で、ちょっと一息・・・

札幌市 瀧谷 尚 弘

今冬は暖冬といわれながら、札幌市の降雪量は3月15日に619cmとなり、札幌管区気象台の観測史上最高となった。もっとも異常気象については、以前から言われてきたことでもあり、あらたまって言うほどのことでもない。

ただ、地球環境問題が現在、多くの人々に話題を提供しているということの意味を改めて考えてみると、これまで人類が変貌を強いてきた環境が、人類にとっていろいろな意味で危険な兆候をはっきりと示すまでになってきたといえるのかもしれない。

生物の種は、現実問題として自然と調和して生存を維持しており、自制がきかないほど強大になり、自然を喰いつくした種はやがて自己を滅亡においやってきた。

現代の人間生活の多様化を考えると、開発は必然である。そして、今日の科学・技術の飛躍的な進歩をみる時、あたかも人類は、地球上に君臨しているかのような錯覚を覚える。

そして、個々の事象の解明については目覚ましいほどの成果をあげている一方で、落とし穴が隠されていることに気づく。例えば、あまり知られていないことではあるが、地球上の生物圏について言うと、いったいどれだけの種が地球上に生活しているのか、その全貌を知るには程遠いというのが実情なのである。

人生帰有道 人間は結局は道を修めた人としてあらねばならないが
衣食固其端 そのはじめは、やはり衣食を満たすこと

人間の生活のために環境の調査をし、その結果に基づいて開発がなされる。ただし、その調査によって人が知り得ることができるのは、ごく限られた部分的な事実にすぎず、しかもその調査結果は、それに関わる人の判断によってさまざまな結論へ導かれるものである。

つまり、「今のところは大丈夫かもしれないが、実は危険をはらんでいるのだ」という認識が必要なのである。現に「安全かつ無害」とされていたフロンはオゾン層をじわじわと破壊しており（しかもこれは目に見えないところで進行しているのだ。）今やとりかえしのつかない影響を環境に及ぼした。

また、「戦争こそ最大の環境破壊である」とはかねがね言われてきたが、いったいいつになったら人類はこの愚行をやめることができるのであろうか。まだくすぶり続けている中東をはじめ、政情不安な箇所は、いたるところに存在している。

さて、今年も新年早々引っ越しをし、その後片付けに追われていた。

昔欲居南村 昔、南村に住みたいと思ったのは、家相を占っての
非為ト其宅 結果ではない。
聞多素心人 純朴な心を持った人が多いと聞いたから、彼らと一緒に
楽与数晨夕 に朝に夕に顔を合わせていたいと願っていたのだ。

ところが、向いの家が廃品回収業を営んでいることは聞いていたが、何と家電店の捨て場所となっていて、せつかくの景観も、山道も廃品の山に阻まれている。道路にはみ出した部分は、警察が処置をすることになったが山道は公道でないらしく、法の規制もそこまでは届かないらしい。今は雪が隠しているが、これから先が思いやられる。

そこの家人がカラスやキツネや拾ってきた十数匹のネコに餌をやっていると聞き、これは本当の動物愛護かなと複雑な気持ちになる。

久去山沢游 ずいぶん長い間、山や沢地のそぞろ歩きから遠ざかり、
浪莽林野娛 林や野原をゆく楽しみをおろそかにした。

冬のスポーツや除雪で屋外に出ることを除けば、毛皮をまとった野生動物に比べてはるかにこもりがちな冬期間は、考えようによっては記録の整理や研究には絶好の時期といえる。今シーズンの反省と、来期の活動テーマの創造といったことに思いをめぐらせたり、またはカーソン女史や南方熊楠といった先人の著作に目を通したりして時を過ごしていた。

盛年不重来 若い時は二度と来ない。
一日難再晨 一日に二度朝がくることはない。
及時当勉励 時を逃さず、十分歓楽を尽くさなくてはいけない。
歲月不待人 年月は人を待ってくれないのだから。

今年もまた、雪どけを合図に人と自然のふれあいの橋渡し役としての活動がまさに始まろうとしているのである。（札幌ホテルの会 会員）

20年前、はじめて北海道の土を踏んで根室にいきました。そこで目にした風景は、ここが日本かと思っただけほど本州とはちがってました。あちらこちらと道内を旅行しましたが、特に道東、道北に魅せられました。自然に対する興味はありませんでした。オオジシギ（名前は知らなかった。）が急降下、急上昇をくりかえし、それを頭の上でやられた時は、少しこわかった。空を見上げると、タンチョウが飛んでいたり、風蓮湖や野付半島には、白鳥が群れをなし、さまざまな花が咲き、冬、ノサップ岬では、流水の間に水鳥が浮かんでいる。そういうめぐまれた自然の中にながらも、その名前を知ろうという考えもなかったし、興味もなかった。

ただ、「鳥がいる、花がきれいだな。」というだけでした。8年間、根室で暮らし、本州に転勤になりました。電車、バスは満員、街には人があふれている。いつしか自然に興味を持つようになりました。

そんなある日、日光戦場ヶ原での探鳥会に参加しました。夜、バスで出発し、戦場ヶ原の、どこか離れたが目的地に着いて、「これから仮眠して早朝、オオジシギを見ます。」という説明。どんな鳥だろうかと思いながら眠りにつきました。早朝、探鳥会が始まると、根室にいる時に頭上でやられて、こわい思いをしたあの鳥である。「なんだこの鳥か、べつに珍しくもない。」と思いながら何度も空を見あげました。それ以来、野鳥に興味を持つようになり、身辺を注意して見ていると、ムクドリ、シジュウカラ、セグロセキレイ、オナガ、夏の夜にはヨタカが飛びまわり、秋にはモズが高鳴きをし、冬になるとツグミ、カワラヒワが見られる。

今までは、スズメとカラスしか目につかなかったのに、いろいろな鳥がいるのに気がついたのは、新鮮な驚きを感じました。

今までいなかった、目につかなかったのではなくて、見よう、知ろうしなかったのが、目につかなかっただけなのだ。自然を知ろう、親しもうという気持ちがなければ何も見えない。多くの人が、私のようにではないのだろうか。その後、野鳥の会に入会し探鳥会に参加したり、一人でバード・ウォッチングに行くようになりました。

そして、8年前に北海道に戻り ボランティア・レンジャーのことを知り、去年、様似での講習会を受講しました。講習会后、野幌森林公園での観察会に参加しましたが、レンジャーの方の知識の豊かさ、名調子には関心させられました。「私はとても真似ができない。」と思いながら、ただ後ろについて行くだけでした。自信があったのは、ネイチャーゲームだけでした。その後、観察会等のスケジュールに私の都合がつかないため活動ができていません。私と同じような方もいると思うし、それに行事が札幌周辺に多いと思います。他の地区ではどうなのでしょう。

そこで、各園定公園や道立自然公園にビジターセンターがあればと思います。ボランティア・レンジャーが各人の都合にあわせて、近くの、あるいは好きな所のセンターに行く。そこでは訪れた観光客などに、その自然の解説、案内をしたり、あるいは自然情報を提供したり、自然観察路の整備、パトロールといった活動を行う。

自然観察会の時だけでなく、いつでも、どこでも多くの人に自然に親しんでもらう、自然を知ってもらうための拠点があればと思います。すでにそういったセンターがあるのかもしれませんが、私の不勉強のため知らないだけかも知りませんが、少しでも多く、できれば全部の公園にできればと思います。

いろいろな問題があるでしょうが、毎年1ヶ所ずつでもできればと思います。

今年は、何とか都合をつけて、観察や研修会に参加し、活動したいと思います。

『ある1日』

恵庭市 吉田 真紀子

仕事の手を休めて、ふと目を上げると、事務所の窓からのぞくキタコブシの目が一段とふくらみ、ハクセキレイが尻尾を振り々空き地を歩く。風の匂いも柔らかさを増し「春なんだなぁ」と感じられる時期になった。

生活環境の大幅な変化でボランティア・レンジャーの活動から離れ、2年近く過ぎ、その間、野幌森林公園や漁岳の付近など、比較的近くに住むにもかかわらず多忙を理由にすっかり足が遠のいてしまった。

先日、あまりの陽気に誘われ、本当に久々にどこかへ出たくなり、支笏湖へ車を走らせた。

湖畔を通り過ぎ途中の駐車場でキラキラ輝く湖面をのんびり眺めひと休みした後、湖畔に戻り車を降りた。本格的な観光シーズン到来に向けて、観光協会の人々が駐車場の雪割りやボート乗り場の手入れに汗を流している。でも、どこかのんびりと楽しんでやっている様に見える。

外は陽射しのわりに寒く、セーター一枚で歩き始めたことを後悔する程だった。まだまばらな観光客も予想外の寒さに連れと驚き肩をすくめて歩きまわっている。

先程の駐車場もそうだったように、ここでもまず飲料水の空缶が目に入った。まっすぐにバスターミナルの裏手からビジターセンターの方向へと歩いたが、路肩に残る雪の中にずい分と空缶がのぞく。遊覧船の乗り場へ降りていくとゆるやかな下り坂の途中に、また石段の隅にと、あること、あること。

ご丁寧に標識の足許にお供えの様にフィルムの空箱と並べてあるものまである。樹木や鳥の姿に期待して出かけたのにお出迎が色とりどりの空缶とはあまりにも情けなくて、急に辺りが冷たく感じたのは、湖面をわたる風のせいだけではなかった様に思う。

捨てた人は、缶やリングプルが鳥や獣や、土壌にどういう影響を与えるのかきつと知らないだろうし、もちろん罪悪感などないのだろうと思う。リングプルやプラスチックを飲み込んだ小動物が、草の陰でその為に死んだとしても、そのひとの生活に何の支障も与えないのだから。

思い出せば、生活道路の周辺にもゴミがいやに目立つ、ひどい時には、我家の庭の奥にまで空缶が投げ込まれていたりする。空缶、ビニール袋、プラスチックの断面、金属片等々、決して土にかえらない物が、あまりにも簡単に、あまりにも不用意に捨てられていく。深閑とした美しい山奥でそれらを発見するのは本当に悲しい。

来た時の晴々とした気分がすっかりどこかへ飛んでしまい、草々に車に戻った。ハンドルを握りながら思い出したことが一つある。それは留萌での自然観察会だったけれど、往きははゆっくり自然を楽しみ、帰りはごみ袋を配って皆で拾ってもどるという会だった。教育委員会の若いお二人でお世話係をしておられたが、子供達にそういうマナーをきちんと指導している姿に感心し、ずい分多くのことを教わった。

まず、自然に親んでもらう。珍しい植物や動物を教え、興味を持ってもらう。ハイキングっぽいものから、本格的な勉強会風なものまで様々でそれはそれで大変結構な事だと思う。しかし、自分一人一人の拾う1つのゴミが大きな意味を持つと教える機会は少ない。

私が参加した観察会の類はそう多くないけれど、指し示した草の陰にあるゴミを拾って見せた指導員を見た覚えがない。草花の名やエピソードを語りながら、ゴミを見て見ぬ振りをする事が、本当の指導者の姿だろうか・・・と。これは私自身の反省でもある。

自然を楽しむ事の第一にゴミを絶対に捨てない事、見つけたゴミは必ず捨てること。色々な名前を覚えるのはその次でも決して遅くないと私は思うが、皆さんはいかがでしょうか？

誰もが、美しい自然に憧れ、愛し、残したいと思うだろう。その為にボランティア・レンジャーとして1つのゴミをもっと真剣に考えてみたい。

残雪の支笏湖と、空缶が妙にこころに残る一日だった。

『地球を思いやる気持ちで』

札幌市 目黒 孝

恵まれた自然環境の北海道を未来にわたり保全し、21世紀の世代に引き継ぐためには全道民が、自然保護に対する思想の効用を推進すると共に、自然に対する普及啓発に努め、自然のすばらしさ、そして、大切さを道民に理解を求めるに、人間の自然のパイプ役、即ち、橋渡し役としてのボランティア・レンジャーの登場となり、これらの方達が、自然保護の思想啓発を推進していくという目的での研修会を新聞で知り、1990年8月3～5日野幌森林公園で、42名の仲間と参加して自然保護の基礎、即ち、いろはを学んだ一人。

講師は、道内における、森林、野鳥、野生動物の自然観察のエキスパートの先生方でした。

かって、道の環境衛生行政の立場、そして獣医師の職として、一貫して、環境問題に関与して来たものでしたが、このボランティア・レンジャーの仲間入りしてからは、森林の自然管理、地域郷土の景観、先人が、自然を育て保ってきた自然と人のふれあいの大切さの本質を知ってきました。

生態科学、生活の歴史などすばらしい芸術の自然なのです。

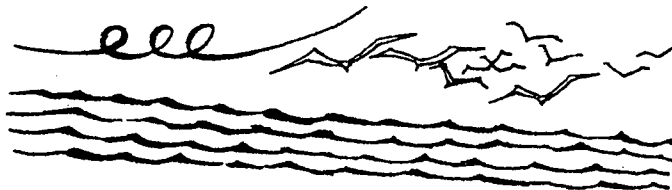
この貴重な、恵まれた自然と親しみながら、森林、野鳥、野の花と地球環境の問題を考え、見ながら、歩くことは、自らの健康増進ともなり、多くの仲間とのふれあいこそ、一石三鳥なのです。

5月12日、野幌の森林公園での自然観察会に108名の自然愛好者と共に参加しました。

3班編成の先輩のリーダーにより、自然観察が行われた。6回生は、7～8名が協力したところですが、リーダーの解説、体験を通しての興味を与えながらの解説振りは、すばらしく心より感服させられました。

現在は未だ職にあるが、「忙中閑あり」の諺の如くできる限り、繰り合わせて時間を作り、参加したいと思うのです。

自然観察の役割を学び、推進していただく、僅かなりとも、地球を思いやる気持ちを深めるために、本協議会の目的に賛同し入会させて頂いた。一步一步努力したいと念願するものです。



『5・6キロメートルの大沢コース 4時間を散策してみて』

札幌市 香島 由美子

五月晴れの日曜日、100名以上の参加者を迎えて森林公園事務所の方々の指導のもとに、レンジャー12名で3班に分かれて歩きました。この公園は、私個人としては歩くスキーで一度、開拓記念館・開拓の村を数回その施設の見学をしました。

この6年間、円山動物園のバードウォッチングに参加し、森林公園の方へとやって来ました。そのうちに樹木・草花ともお話がしたくなり、レンジャーの講習会にも参加したいと思っていましたが、ようやく昨年夫と釧路のシラルトロ沼に参加することが出来て本当に幸せでした。

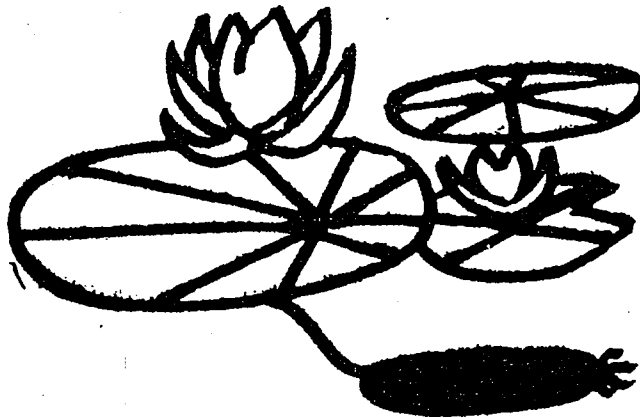
この幸せは、小鳥や虫の生態と可憐に咲いている草花に出会う時の感激を求める気持ちが持続するとき、最高のものとなります。まるで小学生に戻った様な気持ちになります。そして何度か出会っているうちに、頭に入って行くのではないかと実感しておりますし、このような自然を残しておく事の大切さ、秘密の花園を作るような気持ちで名前を覚えていこうと思っています。

双眼鏡も大いに使えるようになり、ミズバショウやザゼンソウを一度に見たことも初体験でした。

大沢の池でキンクロハジロが5羽。ヘビが枯れ木で日光浴をしている様やそれが獲物を狙って木から降りてきたところに出会ったり、エゾのリウキンカ、ツバメオモトなど三脚の望遠鏡で見せて頂いたり、本当に素晴らしいことの連続でした。

こんなことを子供さん達に伝えられたら、もっと、素晴らしくなると思います。

生命の原点を見据えて、自然を大切にする心を育てたいと思いました。先輩の皆様、有難うございました。



春の森林観察会に参加して

札幌市 小淵 修子

5月12日 野幌森林公園での「春の森林観察会」にボランティアレンジャーとして始めて参加しました。

前の週にコースの下見で森の息吹の状況や観察のポイントなどを教えていただき本番に備えましたが、当日は澄みわたった空のもと100人を超える参加者を迎えて、ボランティアレンジャーの方々の活動振りや集まった人達とのふれあいそして、みなさんの笑顔を目のあたりにして熱い思いを感じました。

- ・「にりんそうに親子の顔寄る観察会」
- ・図鑑を開いて真剣に、そして楽しそうに語り合う家族、子らは瞳をかがやかしていました。自然を愛する心が育つでしょう。
- ・緑色の花、ミドリニリンソウと出会い「北大の館脇博士が発見されたのですよ」と教えてくださり、熱心に写真を撮られている背筋のぴんとした80才のお方は、森からフレッシュな空気を存分にうけて嬰籟と歩まれていました。
- ・「息子がいつも一人で出かけるのに今日は”母さん行こう”と誘ってくれた、けれども、ちょっとつらい母の日のプレゼントです。今日は忘れられない」と芽ぶきの樹林の道を少しあえぎながらも、もくもくと歩くお親御さん、母子共有の思い出を心に刻まれたことでしょう。
- ・野鳥の会の人が必要所で望遠鏡を据えてくださり、順番に覗き込んで現象を細かくとらえて驚嘆しきりの人々。
- ・「蛇登る鳥巢の老木やひる静か」

今回は、森の営みや森に集う人々から色々と素晴らしいメッセージをうけて、自然解説員の重要性の一端を学びながら、とにかく楽しくすごしました。

森林観察会に多くの人に参加して、ごく自然に楽しみながら自然愛護・自然保護の一体感を強めていくことが大切だと思います。

皆さんから滋養を受けながら根をおろして、観察会を心まちにしている人が増えるように、自然が大好きな人が増えるように、ささやかでも、種蒔きを続けていきたいとの望みを抱きました。

「冬の観察会から」

札幌市 山口 洋子

家の前の空き地の雪が消えたのが、4月20日。長い長い冬からやっと解放された途端に、木々は芽吹き、土の中からは花々が芽を出し、今年も確実に春が訪れたことに喜びを感じている今日この頃です。

とりわけ今年の冬が長かったのは、新年早々の湾岸戦争の一つ一つのニュースに心を痛めたためでしょう。

そんな中でベルシャ湾に流れ出された原油に汚染された水鳥たちの映像や写真、どれ程苦しかったことかと、一生私達の心の中から消え去ることのないものになるでしょう。

3月10日、快晴のもと、今年度最初の観察会に参加。まだ雪深い野幌森林公園内を、大沢口から大沢園地に向かい、大沢口に戻るというコースで、雪に足をとられたり、滑ったりしながらの4時間でした。

あまり良い天気のおかげ、鳥の姿は少しすくなく残念でした。園内の木々は芽をふくらませ、次ぎの観察会ではそれらの芽から可愛らしい若葉が出てくるのを見られるだろうと期待しております。

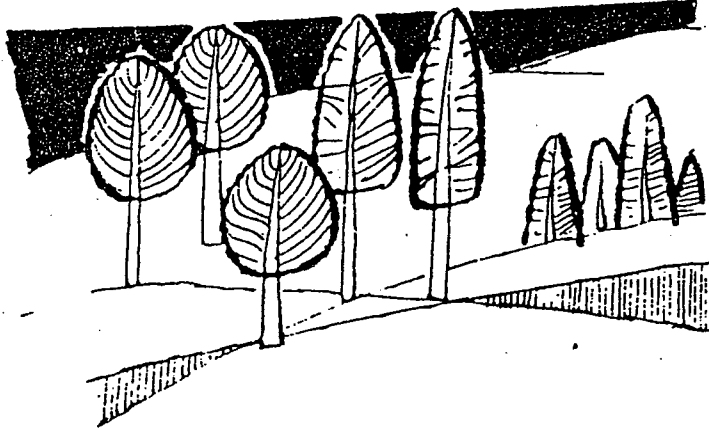
冬の間、小鳥か小動物の食事のために皮を剥がされ、丸々1本裸になってしまった痛々しい木を何本か見ましたが、厳しい寒さの中で生きもの達の戦いを見たような気がしました。

わたしは20年程の間に道内何か所か転居いたしました。その度、住む家を探す時にはなるべく大きな公園の近くを望み、季節ごとに、また朝に夕にその公園の散策を楽しみました。今はこの野幌森林公園の近くに住まい、一昨秋、昨年には犬の散歩も兼ねて夏の終わりから初冬にかけて週2週間程園内を歩き続けてみました。その時目にした日増しに進む紅葉の美しさ、木漏れ日の美しさ、また落ち葉の踏みしめる足音、風に舞う落ち葉の勢い、そして鳥達の声、枝から枝へ飛び移るリスの姿等々、すっかり野幌森林公園の魅力に取りつかれてしまいました。

昨年8月幸運にもボランティア・レンジャー研修会に参加でき、「ボランティア・レンジャー」のバッジは戴いたものの、以後観察会に参加してもさっぱり知識は増さず、掃りにはその後悔ばかりで、先頭に立つレンジャーの方の言葉にただうっとりとするばかりです。昨年1年でだいたい覚えられた木が10本程度（半分位は冬の間忘れてしまった）、これを10年位続けられたらなんとか・・・と今は開き直りつつあります。

昨年まで連れ歩いた犬は今は太りすぎて歩きたがらず、森林公園へ行く機会が減ってしまいました。

今年の観察会には昨年より一度でも多く参加して、森の「1年中」を観察し、また諸先輩から多く学ばせて頂きたいと、この季節心たに張り切っているところです。



お知らせNO.1

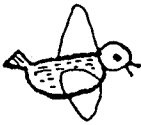
「平成3年度北海道ボランティア・レンジャー協議会定期総会の開催」

第4回役員会で、平成3年度北海道ボランティア・レンジャー協議会の定期総会を下記のとおり開催することに決定しました。

従来は1泊のスケジュールで行っていましたが、本年は沢山の参加を希望しての決定ですので、萬障お繰り合わせのうえ、多数の出席をお願いします。

日時 平成3年8月24日(土) 15:00~17:00

場所 札幌市職員会館 アカシア(2F)
札幌市中央区大通西18丁目
電話(011)-621-0156
(地下鉄西18丁目下車 1番出口)



お知らせNO.2

「平成3年度北海道ボランティア・レンジャー協議会主催の自然観察会
主催の自然観察会と野幌森林公園事務所の森林観察会の責任連絡者について」

従来この種の催しの際のボランティア・レンジャーの協力体制は必ずしも良いとはいえなかった。そこで第3回役員会に諮られた結果、次のように連絡責任者を決めました。

今後開催される自然観察会の下見、本番に参加可能な会員は連絡責任者に連絡下さい。

春の森林観察会(公園事務所) 5月12日(日) 9:30~14:30

加藤清春(006 札幌市西区曙8条1丁目5-13 Tel 682-2522)

玉田紀美子(063 札幌市西区山の手2条1丁目1-34 Tel 621-0331)

環境月間行事野幌自然観察会(協議会) 6月9日(日) 9:30~12:30

八戸克美(069 江別市野幌若葉町25-27 Tel 384-1950)

佐々木幸夫(003 札幌市白石区川下5条2丁目4-32 Tel 875-6602)

夏の森林観察会(公園事務所) 8月4日(日) 9:30~14:30

八戸克美、佐々木幸夫

野幌自然観察の集い(協議会) 9月8日(日) 9:30~12:30

八戸克美、佐々木幸夫

秋の森林観察会(公園事務所) 10月20日 9:30~14:30

大友 健(064 札幌市中央区宮の森2条13丁目9-13 Tel 721-6054)

木村万治郎(065 札幌市東区北21条東6丁目365 Tel 741-3565)

冬の森林観察会(公園事務所)

八戸克美、佐々木幸夫

「平成3年度ボランティア・レンジャー育成研修会の開催」

北海道保健環境部自然保護課では、本年度も昨年度と同じように年3回、次ぎのようにボランティア・レンジャーを育成することになりました。第8回（本年度第1回）は、8月1日～3日丸瀬布町（網走支庁）で開催しました。定員をオーバーする申し込みであり、第9回は9月5日～7日、真狩村（後志支庁）、申込受付は7月20日締切でこれも定員をオーバーしました。第10回は10月3日～5日、当別町（石狩支庁）で開催されますが、締切は8月20日です。身近でボランティア・レンジャーになるのにふさわしい方がおりましたら勧誘下さい。

「平成3年度ボランティア・レンジャー実践セミナーの開催」

道自然保護課では本年度もボランティア・レンジャーの実践的な知識や技術の習得を図るため、実践セミナーを、次ぎのように開催することに決定しました。

詳細については後日お知らせしますが、出来るだけ参加されるよう計画して下さい。

開催年月日：平成3年11月15日～16日の2日間
開催場所：苫小牧市ウトナイ湖サンクチャリー



お願い

「会員研修会の開催について」

会員研修については、協議会の事業として総会で承認されているところですが、例年その参加数が少なく講師の先生にも失礼になりかねません。

沢山の会員が参加できるように、研修内容と開催日の希望を是非、広報部佐々木にご連絡下さい。

編集後記

「エゾマツ17号」をお届け致します。今回初めて「星座」に関する原稿をお寄せいただきました。この文章を読ませていただいて自然と関わる場合は「機会」（チャンスー春夏秋冬）が大切だとあらためて思い知らされました。

今から二十数年前、北海道の酪農の父ー黒沢西蔵氏ーは「機を知るは農の始めにして終わりなり」と我々学生に機会ある毎に説かれていた。「農業は最初から最後まで機会（チャンス）をどう活かすのが大切です。蒔時期に蒔き、収穫する時に収穫しなくてははいけません。機会を間違ったり、逸してはなりません。また目先の事だけでなく巨視的に見ていかななくてははいけません。無機農業は何時かは必ず破綻をきたします。有機農業を目指さなくてははいけません」と。

また氏は「健土健民」と言う言葉も残されている。

足尾銅山事件に関わった田中正造を師とあおぎ、自らの哲学を自らの厳しい生き様で一生を貫かれた。そして今、この言葉の重みを今一度かみしめなければならぬ時期でもある。（反芻自戒）

（山上）